

10代のあなたに贈るブックガイド 2015

湖西市立図書館編集・発行

■マークは石部図書館に、★マークは甲西図書館にあります。

大人への一歩				
『大人になるっておもしろい?』	清水真砂子/著	岩波書店	★	(159.7-才)
「ひとりであるっていけないこと?」傷つくことを恐れず、もっと伸びやかに自由に生きてみませんか。				
『大きらいなやつがいる君のためのリベンジマニュアル』	豊島ミホ/著	岩波書店	■★	(F-トシ)
高校時代にクラスメイトに傷つけられ、その精神的ダメージに長く苦しめられてきた著者が語る「憎しみ」「恨み」「傷」との向き合い方。				
『時速47メートルの疾走』	吉野万里子/著	講談社	■★	(児913-ヨシ)
クラスで目立たないアイツが、なんでそんなに頑張れるんだ? 校庭一周二百メートルを逆立ちで駆け抜ける青春群像小説。				
『風のアヒルクライム』	加部鈴子/著	岩崎書店	■★	(児913-カベ)
13歳の誕生日に父からロードバイクを贈られた涼太は、勢いでレースに参加することになる。学ラン・ママチャリで爆走する高校生などそれぞれの人間模様を乗せ、ゴールをめざす。				
『片目の青』	陣崎草子/著	講談社	★	(児913-ジン)
13歳の真矢が出会った野犬の青と、老いた飼い犬のフリ蔵。真矢は野犬の命を守ろうと大人に反抗するが…。二匹の犬が、真矢に伝えたこととは—?				

平和を考える				
『世界を平和にするためのささやかな提案』		河出書房新社	★	(児319)
世界を平和にするために、わたしたちができることは。黒柳徹子(女優・ユニセフ親善大使)、上坂すみれ(声優)など22人が、今日からできる平和のためのアイデアを提案する。				
『ドコカ行き難民ボート』	シモン・ストランゲル/著 批谷玲子/訳	汐文社	★	(児949-スト)
15歳のエミーリエは、家族で旅行に出かけたスペインのグラン・カナリア島の浜辺で、今にも壊れそうな小さな木のボートを見た。海から救い出した少年は、ガーナからの難民だった。この出会いがエミーリエの人生を永遠に変える。				
『「戦争」が生んだ絵、奪った絵』	野見山暁治 他 / 著	新潮社	★	(720.2-セ)
戦争を生き抜いた画家は、今度は戦争体験とたたかわなければならなかった香月泰男のシベリアシリーズなど戦争によって生まれた絵などを紹介。				

スクールライフ				
『メランコリー・サガ』	ひこ・田中/著	福音館書店	■★	(児913-ヒコ)
大きなショッピング・モールや、おしゃれなデパート、オタク街。都会の真ん中で暮らす小6の3人が出会ったレトロなゲームソフトは、何を語り出すのか。				
『ABC! 曙第二中学校放送部』	市川朔久子/著	講談社	■★	(児913-イチ)
みさとが所属するのは、たった2人の放送部。廃部の危機に加え、学校一厳しい先生からも目をつけられ、イマイチな毎日が続く。さらに美少女の転校生・葉月が現れ、状況は複雑化。個性豊かなキャラクターたちのみずみずしい成長物語。				
『3年7組食物調理科』	須藤靖貴/著	講談社	★	(F-スト)
新居山総合技術高校食物調理科、通称「ショクチョウ」。クラスのルールは‘全員一致’。怒るとコワイ小梅先生と、調理に明け暮れる毎日を過ごす高校生30人の、熱くて美味しくてほろ苦いクッキング・ストーリー。				
『ファイト!木津西高校生徒会』	本田有明/著	河出書房新社	■★	(F-ホン)
三流高校に入学した失意の「特待生」。なぜか生徒会会長に立候補し、当選。女子生徒の要望を取り入れた校内の改善や甲子園を目指す野球部の応援など大忙しの高校生活。				
『火星の話』	小嶋陽太郎/著	角川書店	★	(F-コジ)
数学で、0点という歴史的数値をとってとまった。夏休みの補習授業を、自称「火星人」の佐伯さんたちと受けることになった。その佐伯さんは、十八歳の誕生日には火星に帰ってしまうという。				

詠むを読む				
『うたうとは 小さないのちひろいあげ』	村上しいこ/著	講談社	■★	(F-ムラ)
高校1年生になった桃子は、短歌を詠む「うた部」に入部する。でも、不登校になったままの親友の綾美に対して部活のことを言い出せないばかりか高校で友達はつくと宣言。そんな時、短歌甲子園に出場しようという話が持ち上がった。				
『十代に贈りたい心の名短歌100』	田中章義/著	PHP研究所	★	(児911)
湖南省出身の河野裕子さんの恋歌も収録。歌に込められた想いが熱くよみがえるのをかんじてみませんか。				

こんな本も…				
『ナショナルジオが行って見た究極の洞窟』		日経ナショナルジオグラフィック社	★	(454.6-ナ)
地球の内側をナショナルジオグラフィックが案内。「究極の洞窟」の数々を紹介する。				
『新世界 透明標本1・2』	富田伊織/作	小学館	★	(480.7-シ)
そのたたくまは、生物でありながらまるでガラス細工のような美しさ。骨が染められ筋肉が透明になった魚類や甲殻類などの標本たちが、浮遊感とともに迫る写真集。				
『美しいプランクトンの世界』	クリスティアン・サルテ/著	出書房新社	★	(468.6-ウ)
『名人』	梅佳代/写真・文	静山社	★	(748-メ)
梅佳代が日本各地の名人に会いに行き、名人の技に体当たりで挑む。笑いあり、感動ありの名人体験・写真集。				
『世界歴史建築大図鑑』	ドーリング・キンダースリー/編 松本大洋/絵	原書房	★	(520-セ)
緻密なイラストと簡潔な記述で世界の旅へ。ヴェルサイユ宮殿から自由の女神まで、103の歴史モニュメントを取り上げ、「断面」と「鳥瞰」と美しいカラー写真で紹介。				
『世界でいちばんすばらしいもの』	ヴァイアン・フレンチ/文 アンジェラ・パレット/絵 石井睦美/訳	BL出版	★	(E-バレ)
王様は、世界で一番すばらしいものを見せることができた若者を娘のむこにしようと、お触れを出したが…。驚きと感動のおとぎ話を、美しく幻想的な絵で描く。				
『リンドバーグ 空飛ぶネズミの大冒険』	トーベン・クールマン/作 金原瑞人/訳 石井睦美/訳	ブロンズ新社	★	(E-リン)
1912年のドイツ・ハンブルク。ネズミとりがこわくて逃げ出した仲間を追って、本好きの小ネズミがアメリカへ行くことを決意。設計図をかき、飛行機をつかって、空を飛んだ。				

『ゆめみの駅遺失物係』	安東みきえ/著	ポプラ社	■★	(児913-アン)
<p>中学生の主人公が訪れた駅の遺失物係には、拾われた「おはなし」が届けられていた。探している物語はここにあるのかも。なくした「おはなし」を探し聞く、美しくふしぎな物語。</p>				
『雲をつかむ少女』	藤野恵美/著	講談社	★	(児913-フジ)
<p>おもしろ動画を見て、笑って、毎日を過ごしたい。でも、この心のもやもやは、どうしたらいいのだろう。〈リアル〉と〈ネット〉をめぐる物語。</p>				
『踊る光』	トケ・ドラフト/著	岩波書店	■★	(児949-ドラ)
<p>灯台は光が夜どおしともっていなければならない。ひっそりとひたむきに生きた、灯台守のふしぎな人生を描いた作品など六つの短編作品を収録。</p>				
『ことづて屋』	濱野京子/著	ポプラ社	★	(BF-ハマ)
<p>山門津多恵の頭には時折、死者からの伝言がひびいてくる。宛てた人物にその言葉を伝えるまで、津多恵は楽にならない。伝えられた言葉は残された人に何をもちたのか。痛みをかかえた心をほぐす、あたたかい物語。</p>				
『落っこちた』	ザラー・ナオウラ/著 森川弘子/訳	岩波書店	★	(児943-ナオ)
<p>ぼくの家は“町一番のすばらしい家族”だった。「退屈」が大嫌いで、トラブルを起こすのを何よりの楽しみにしているおばあちゃんが突然、あらわれるまでは…。ハチャメチャな展開とユーモアで一気に読ませる快作。</p>				